

親愛なるキリストにある兄弟姉妹

迫害下にある教会のための国際祈祷日（IDOP）2025

テーマ 「最後まで忠実であること」

世界中で、何百万ものクリスチャンが、イエスに従うことに大きな代償を伴う場所で暮らしています。ある推計では、その数は3億8000万人に上るとされています。これは、信仰のために迫害に直面しているクリスチャンが、世界中で7人に1人いることを意味するものです。

聖書は、キリストに従う者にとって迫害が珍しいことではないと教えています。使徒パウロはこう記しました。「キリスト・イエスにあって敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます。」（テモテへの手紙第二 3:12）。イエスご自身もこう言われました。「人々がわたしを迫害したのであれば、あなたがたも迫害します」（ヨハネの福音書 15:20）。しかし苦しみの中でも、聖書はより大きな真理を保証しています。「だれが、わたしたちをキリストの愛から引き離すのですか。苦難ですか、苦悩ですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。」（ローマ人への手紙 8:35）。

礼拝の自由を享受する私たちに対して、聖書は信仰のために苦しむ者たちと共に立つよう呼びかけています。「一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ」（コリント人への第一の手紙 12:26）。また「牢につながれている人々を、自分も牢にいる気持ちで思いやりなさい」（ヘブル人への手紙 13:3）。

世界福音同盟が主催する「迫害される教会のための国際祈祷日（IDOP）」は、二十年以上にわたり、苦しむ兄弟姉妹のために全世界の教会を祈りで一つにしてきました。毎年11月に、世界中の教会はこの時を、苦難と敵意の中でも信仰を堅く保つ者たちのために執り成し、行動する時として捧げています。

今年、IDOP 2025 は「死に至るまで(終わりまで)忠実であること」（黙示録 2:10）をテーマに、11月2日と9日を記念とします。教会は11月を通じて自由に記念することもできます。

リソースや体験談、参加方法については IDOP.org をご覧ください。

信仰を共有しながらも自由を享受できない人々を共に覚えましょう。彼らが最後まで忠実であり続けることが出来るよう祈りましょう。

祝福を込めて

ゴッドフリー・ヨガラジャ
信教の自由委員会・大使
世界福音同盟